

片子を歩く

# 伝統の盆綱

匠瑗探訪

147

盆の伝統行事に片子区（飯高地区）の「盆綱」があります。毎年8月14日に行われ、本紙平成26年9月号では次のように紹介されています。

られました。

盆綱の行事については『千葉県歴史 別編 民俗1（総論）』（平成11年3月発行）に記載されています。

各家庭から持ち寄ったわらを使い編み上げられる盆綱は、長さ20mにもなる大きなもの。出来上がった盆綱は、妙印寺境内の2本の大木の間に下り下げ

同書には県内で、地域をかなり限定した形で分布しているのが特徴とされます。成田市の集落で確認されているのは、編み上げた竜をかたどった綱を、迎え盆の13日に墓

を出発点とし、送り盆の15日には墓を終着点として各家を回ったといいま

境内の大木に完成した綱を張る



たといいます。この綱に仏様が乗って訪れ、また帰って行くというです。

片子区は中世以来の古い集落です。それにふさわしい伝統の盆綱の継承は、貴重な文化遺産と言えるでしょう。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問秘書課広報広聴班

☎73・0080

片子区の盆綱を40数年前に調べた時に、同区でもかつて新盆の家には子どもたちが綱を引いて行ったと聞いた記憶があります。

当時、寺境内の2本の大樹に巻き付けた後、子どもたちがぶら下がり遊んでいるのを見たので、盆綱の行事に子どもたちも関わっていたのでしょう。

蛇型綱を用いる神事や行事は市内では、山桑区（匠瑗地区）正月の「つなかけ神事」や時曾根区（豊栄地区）2月の「大蛇まつり」があります。これらは年占いや厄除けの意味があるとされますが、「仏の送迎」は全国的にも千葉県北部を含む霞ヶ浦周辺部にだけの分布とされます。